

4) 宝井其角 (たからい きかく) (1661年～1707年)

江戸時代前期の俳諧師。本名は竹下侃憲(たけした ただのり)。

父・東順は、近江堅田の農家の出身で江戸へ出たのち、医をもって膳所藩本多家(膳所藩主か)に仕えました。

15歳ごろから松尾芭蕉に俳諧を学び始め、ほとんど同時期に木顛和尚に詩学と漢籍を、草刈三越に医学を、佐々木玄竜に書を、英一蝶に絵を学んでいます。

富田の文化と経済を詠んだ有名な回文俳包として『けきたんと、のめやあやめのとんたさけ』があります。

5) 入江若水(いりえじゃくすい)(1671年～1729年)

富田十人衆の蔵元「亀屋」に生まれ、名は兼通。家業を継ぎながら、伏見の鳥山芝軒に漢詩を学び、また京都の伊藤東涯門に入門したり、江戸の荻生徂徠とも親交があり、漢詩を能くしました。沈溺生活や中国貿易の失敗などから家産を失い、京都嵯峨に隠棲して文人騷客と交わり風雅の生活を送ったと言われています。

著書は詩集『西山樵唱』で序文は荻生徂徠、服部南郭らが筆をとり、跋文は高槻真上光徳寺の独麟禅師が書いています。

6) 天坊幸彦(てんぼう さちひこ)(1871年～1955年)

歴史学者、大阪府史蹟調査委員。付近の古代条里制を研究し、今城塚古墳が真の継体天皇陵であることをつきとめ、1915年以来大阪府に上申を二度、宮内庁に一度、今城塚古墳の保存を申し入れていたが実現に至りませんでした。

著書に『上代浪速の歴史地理的研究』『古代の大阪』『高槻通史』『富田史談』などがあります。又、幻の「富田焼」を復活させた。

7) 遠山麦浪(とうやま ばくろ)(1881年(明治14年)～1961年)

岐阜生まれ。僧名は禅益、麦浪は俳号(一時期 含翠と号す)。大正5年妙心寺にて秋田の俳人で子規門四天王の一人である石井露月を知り、私淑していました。

昭和3年家族とともに普門寺に住職として入山し、昭和9年俳誌「獅林」(隠元の扁額に由る)を創刊すると、以後は地元富田句会をはじめ大阪、京都の句会などを指導し、多くの俳人を育てています。

一方、荒れ果てていた普門寺の復興にも力を注ぎ、昭和28年には方丈の大修理にも取り組んでいます。

麦浪句集『含翠』。普門寺には句碑もあり、表に『聞くならく伽藍の内外秋の風露月山人』、裏には『碑に身を寄せて聞け秋の声 麦浪』と彫られています。